

学校運営に係る取組

学校支援に係る取組

地域貢献に係る取組

学校(園)が連携した地域ぐるみの取組



周防大島町

Suo-oshima



「未来志向でコミュニティ・スクールを」

周防大島町教育委員会 川本 卓

市内小中学校がコミュニティ・スクールに選定されてから年が経ちました。その間、校長先生がリーダーシップのもと学校と地域の連携・協働により、学校と地域の相互理解が深まり、あつたててよい結果が出ている。これからは、積極的に取り組む人だにこれまでの活動を、必要なもの、継続可能なもの、スリム化、見直しをしないといけない。見直しを、本来目指してコミュニティ・スクールを発達させて欲しい。

周防大島町の推進構想

これまでの推進体制

中学校区単位の小中合同学校運営協議会(地域協育ネット協議会)において、それぞれの実情に沿った熟議を開催したり、講師を招聘した研修会を開催したりすることで、中学校区でござ子ども像や地域像を設定した取組を進めてきた。また、熟議をもとに具体的な教育活動を定める等の実効性のある協議を週して、9年間の子どもの学びや育ちを見守り、支援する体制が整った。中学校区の教育が充実し、結果として教育による地域の活性化も進んだ。

明らかになった課題と課題解決の方策

「学校だけでは解決できない教育課題を解決していくために、家庭支援等の取組を取り入れること」「今の子どもにとって真に必要な取組は何かを学校関係者や地域関係者で議論し、同じ願いをもって教育に関わること」には、引き続き取組の必要性を感じていた。また、中学校区の取組の成果や課題を、周防大島町全体の学校関係者や地域関係者が共有することも課題があった。

これらの取組の重点化や課題の解決を進めていくためには、地域連携教育アドバイザーの助言・指導のもとで、取組を円滑に進めていく人材(総括コーディネーターや地域連携活動支援員等)の動きづくりや仕組みづくりが重要になると考えた。そこで、地域連携担当教員(学校関係者)や総括コーディネーター、地域連携活動支援員等(地域関係者)をネットワークの中心に据える仕組みを作成した。次に、町内全ての学校の取組を可視化し、小・中学校で連続性のある活動にしていくために、地域と協働した教育活動を一覧表に整理した。このようにして、町全体でコミュニティ・スクールを核とした学校・家庭・地域の連携・協働体制を確立し、持続可能な推進体制を構築することにした。

今後の展望

周防大島町のコミュニティ・スクールは立ち上げから5年が経過し、これまでの取組を発展したり、改善したり、取り込んだりする段階にきている。子どもにとって真に意義のある取組とは何か、学校にとって特色ある取組とは何かを考え、取組を精選し、成果を確実に上げていくことが期待されている。そこで、周防大島町コミュニティ・スクール推進協議会を軸として、周防大島町のコミュニティ・スクールの課題解決や、取組の重点化を進めていきたい。8月に開催した第1回目の周防大島町コミュニティ・スクール推進協議会では、子どもの育ちや学びに携わる様々な立場の大人が知恵を出し合い、子どもを中心とした教育活動を進めていくために、自分たちができていることを協議した。今後も、周防大島町コミュニティ・スクール推進協議会を軸に、子どもがこれからの時代を生きていくために必要な力は何かを学校と社会が共有し、共に子どもを育てていく取組を推進していきたい。



取組

学校運営に係る取組



周防大島町立久賀小学校・久賀中学校

合同学校運営協議会で、学力向上・生徒指導・心の教育の3部会に分かれ、各部会の課題解決に向けてできることについて協議し、多くの魅力的な意見が出された。

地域貢献に係る取組



周防大島町立沖浦小学校

「山口ゆめ花博」花育プロジェクトに児童・教職員・保護者・地域の方が一体となって取り組むとともに、学校で種から育てた苗を全自治会に配り、各地域に花いっぱい運動の輪が広がった。

学校支援に係る取組



周防大島町立島中小学校

「保護者・地域の方の思いや考えに対して謙虚に耳を傾け、自分のよさを活かして進路について考える」という内容で、地域・保護者参加型進路授業を行った。

学校(園)が連携した地域ぐるみの取組



周防大島町立東和中学校

地域の方が講師となって、年間を通して一輪挿しや質問教室などの活動を行い、心の教育と学力向上の両面から生徒一人ひとりを支援していただいている。